

船舶事故等調査報告書

平成26年6月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|---|
| 事故等番号 | 2014広第38号 |
| 事故等種類 | 乗揚 |
| 発生日時 | 平成25年9月14日 12時45分ごろ |
| 発生場所 | 愛媛県今治市吉海港 吉海港津倉防波堤灯台から真方位108°500m付近 (概位 北緯34°09.3′ 東経133°02.3′) |
| 事故等調査の経過 | 平成26年2月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | 砂利運搬船 第一大成丸、376トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 132740、株式会社大和商会 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、五級海技士（航海） |
| 死傷者等 | なし |
| 損傷 | 船底外板、推進器翼等に破損 |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか3人が乗り組み、碎石約1,000tを積載し、船首約3.5m、船尾約4.5mの喫水で吉海港に向かった。 船長は、吉海港において、船首に2人、船尾に1人をそれぞれ配置に就け、操船に当たり、吉海港の岸壁に着岸作業中、前進速度が速かったので、前方の浅瀬に接近し、機関を後進にかけたが、平成25年9月14日12時45分ごろ船底に衝撃を感じた。 本船は、船倉及び機関室に浸水を認めなかったので、航行を続け、平成25年12月30日に入渠した際、船底外板、推進器翼等に損傷が発見された。 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期 |
| その他の事項 | 船長は、これまで吉海港へ約10回入港し、浅瀬の存在を知っており、満潮時に入港することとしていた。 船長は、大分県津久見市津久見港の出港時間が遅れたので、水深が浅くなる前に着岸したいと思い、遅れを取り戻そうとしていた。 |
| 分析 | |
| 乗組員等の関与 | あり |
| 船体・機関等の関与 | なし |
| 気象・海象の関与 | あり |
| 判明した事項の解析 | 本船は、吉海港で着岸作業中、前進速度があったことから、浅所に接近し、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が、吉海港で着岸作業中、前進速度があったため、 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>浅所に接近し、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p> |
| 参考 | <p>船長は、本事故後、低潮時は無理をせず、満潮時期を待って着岸することとした。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 余裕を持った運航計画を立案し、無理のない操船を行うこと。・ 喫水、航行海域の水深及び潮汐を調査し、航行の安全を確保すること。 |